資料2

いさはやオレンジ2024を通じた認知症の普及啓発の取組みについて

1. 認知症の普及啓発に関する意見 （令和6年第1回までの認知症対策推進会議）

認知症の普及啓発に関する意見

- **自分で情報を取りにいかない人へのアプローチを考える必要がある。**
- **世代によって受け取りやすい情報源が異なるため、幅広い周知方法が必要である。**
- 学校教育に力を入れたらよい。
- 夏休みの学童でのイベントやSOS模擬訓練の子ども版を実施し、楽しみながら学べる機会を作る。

↓

普及啓発におけるポイント

①自分事として捉えることができるよう、参加する機会をつくる
②情報に触れる機会をつくる

↓

ポイントを踏まえ、「いさはやオレンジ 2024」を実践

2. いさはやオレンジ2024の実施内容とまとめ

（1）実施内容

①自分事として捉えることができるよう、参加する機会をつくる

	対象	内容	実績
オレンジDAY	市民	・9月21日世界アルツハイマーデーに市民にオレンジ色の物を身につけてもらう。 ・身につけた物等の写真を撮り、メールにて投稿いただき、高齢者ささえあいネットへ掲載する。	・募集期間　R6.9.21～R6.9.30 ・周知方法　諫早市公式LINE 広報いさはや9月号（R6.8.20発行） 長崎新聞（R6.9. 4発行） ・投稿者数　18名 （市民　4名、市職員 14名） ・写真枚数　71枚
オレンジの木の設置	市内図書館来館者	オレンジの木を市内図書館に設置し、認知症の方、家族へのメッセージを書いてもらう。	・設置期間　R6.9.1～R6.9.30 ・メッセージ付箋数　79枚 諫早図書館　：22枚 西諫早図書館：　8枚 たらみ図書館：31枚 森山図書館　：18枚

オレンジの木のメッセージ内容　（一部抜粋）

◎本人・家族へメッセージ
・一人で抱え込まないで。みんなを頼って生きていきましょう。お互い様。
・みんなで見守れるように、１人で抱え込まないで相談とか頼ってください。
◎自分ができること
・誰もがなり得る病気なので、怖いからと逃げるのではなく、真剣に向き合っていきたいです。
・私の親は幸いにも認知症ではありませんが、もしかかってしまったらと思うと、不安です。他人事ではなく、明日は我が身と思い、気を付けようと思いました。
・おばあちゃんたちのスピードで声をかける
◎目指す地域像
・人と人がいつまでも声をかけ合えるようなやさしさあふれる地域づくりができると良いと思います。
・「認知症になってもよろしくね！」と言い合える地域になるように、何でも言える体制づくりをしていきたいです。

〇オレンジDAY

・市職員からの投稿はあったものの、市民からの投稿は少なかった。

〇オレンジの木

・図書館に設置することで、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、認知症について考えるきっかけを作ることができた。

・メッセージ内容から、認知症を自分事として考える市民がいることがわかった。発信の場を作ることは自分事として捉える機会として効果的だと思われる。

市内図書館でのオレンジの木の様子

書いている様子

諫早図書館

西諫早図書館

たらみ図書館

森山図書館

②情報に触れる機会をつくる

	対象	内容	実績
缶バッジの配付	・市議会議員 ・地域包括支援センター職員 ・市職員等	オレンジ色の缶バッジを配付し、身につけてもらい、9月は世界アルツハイマー月間であることを発信する。	・着用期間：R6.9.1～R6.9.30 ・配付対象者：260名 ・市議会中継で市内に配信 ・バッジを見た関係者から問い合わせあり。
チラシ配布	・のんのこ祭り参加者 ・諫早駅利用者（主に通勤・通学者）	のんのこ祭り会場や諫早駅にて、認知症に関するチラシを配布し、情報に触れる機会を作る。	・のんのこ祭り来場者：約360名 ・諫早駅利用者：約400名 ・従事者：認知症の人と家族の会：6名 鎮西学院大学学生：11名 地域包括支援センター職員：5名 課担当職員：6名
横断幕・のぼりの設置	市民	アルツハイマー月間の横断幕・のぼりを市民の目に触れる場所に設置し、情報に触れる機会を作る。	・設置期間：R6.9.1～R6.9.30 ・設置箇所：市役所駐車場、社会福祉会館玄関前、健康福祉センター等 ・認知症サポーター養成講座にてアンケート実施。　（詳細は以下のとおり）

取組みの様子

のぼり

缶バッチ

横断幕

(2) アンケート報告

目的：取組みの認知度を把握するため

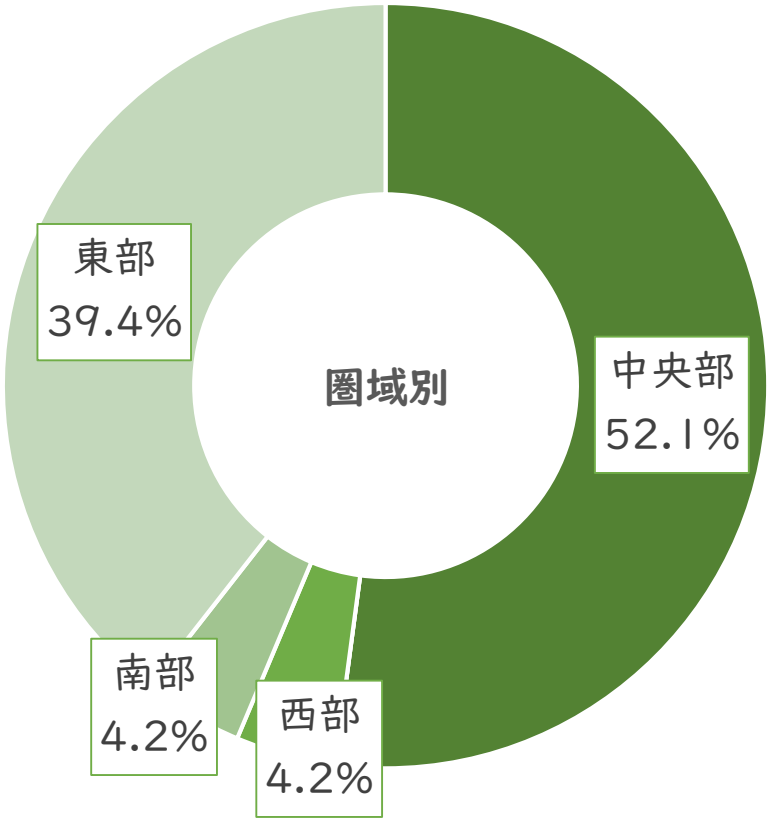
実施期間：令和6年10月1日～令和6年11月30日 （集計は11月15日時点）

対象者：期間中に実施した講座の参加者（213人）

※集計時点では、講座開催の圏域や参加者年代の偏り、集約すべき項目の不足等、課題はあるものの、現状の把握として集約を行った。

○属性

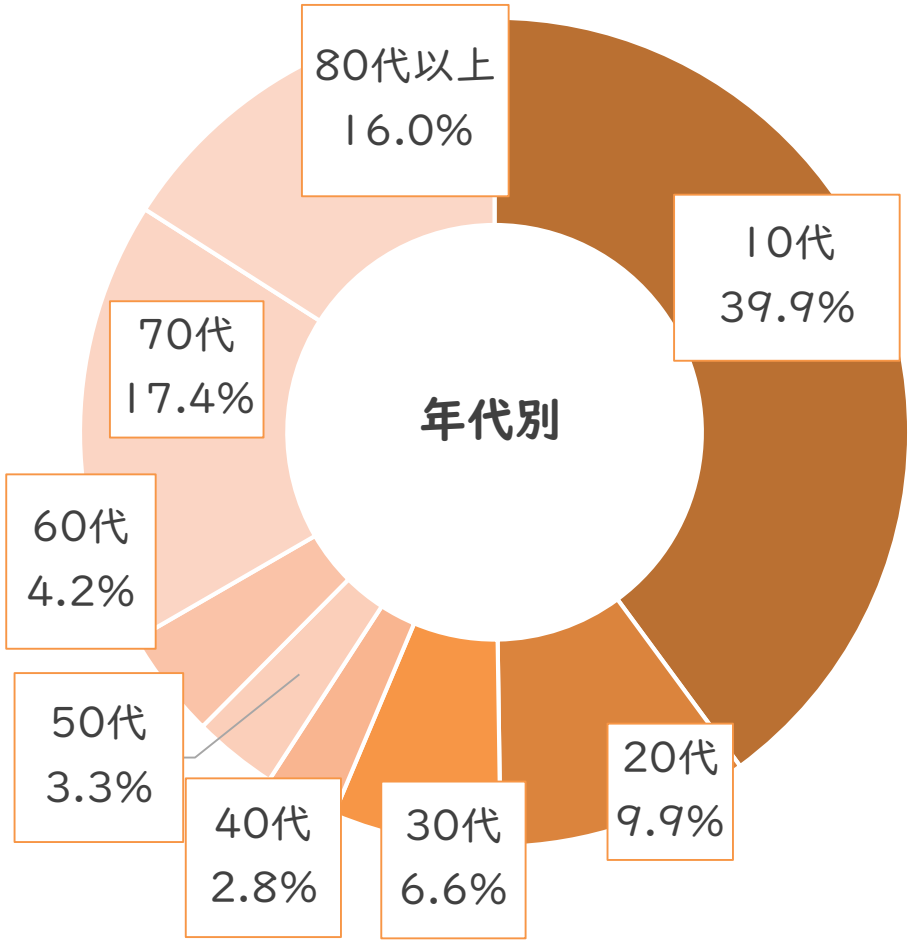
圏域	実施場所	人数
中央部	諫早市役所（新人研修）	35人
	諫早市役所（バリアフリー研修）	21人
	諫早図書館	8人
	NTT退職者の会	34人
	福田町ハピネス	13人
西部	大島区いきいきサロン	9人
南部	扇町いきいきサロン	9人
東部	高来中学校3年生	75人
	小ヶ浦老人会	9人



※北部圏域：期間中の実施なし

○対象者の年代

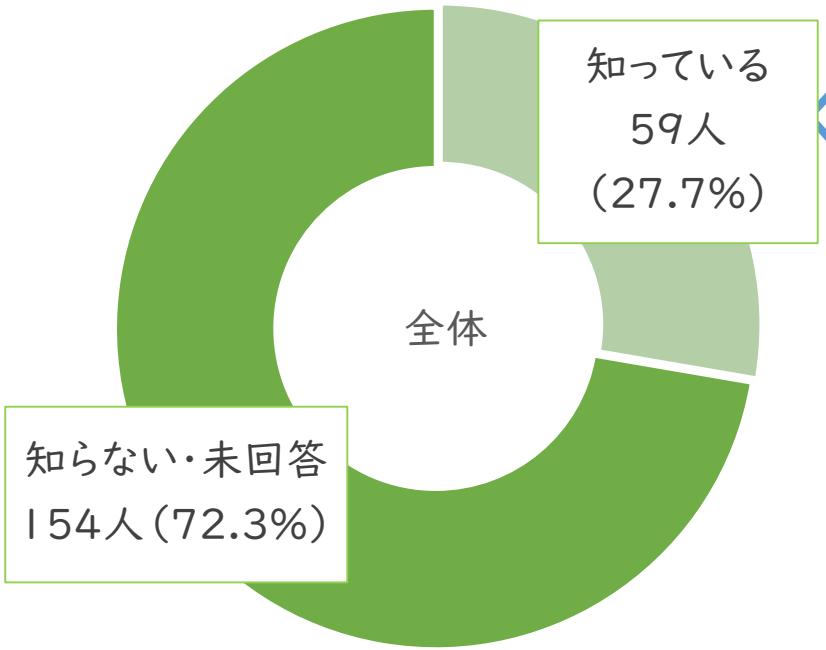
年代	人数
10代	85人
20代	21人
30代	14人
40代	6人
50代	7人
60代	9人
70代	37人
80代以上	34人
合計	213人



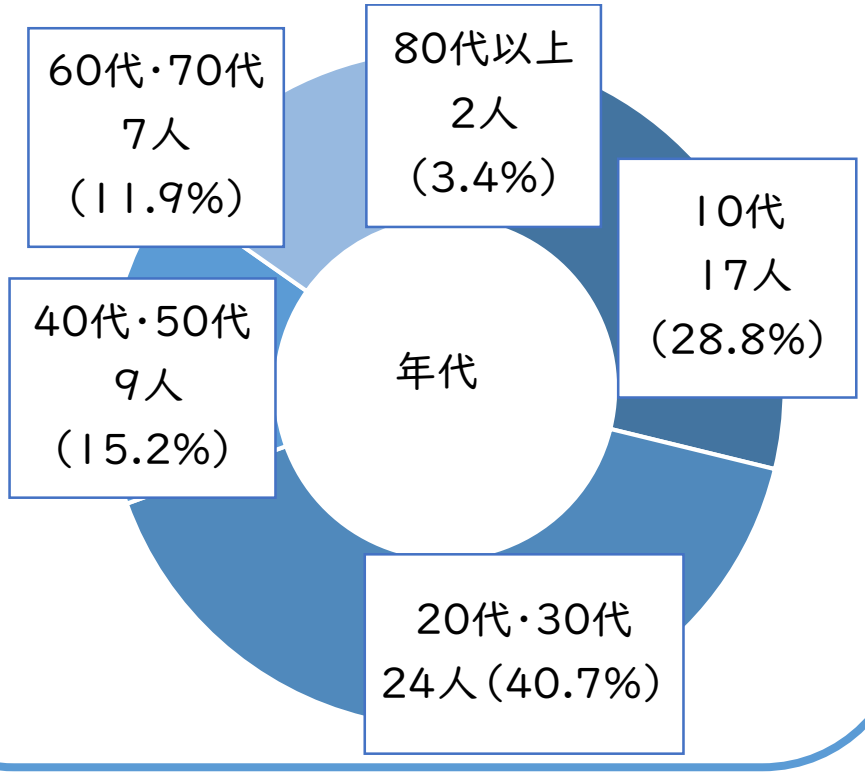
回答者は圏域別では西部、南部の回答者が少なく、北部は期間中の講座がなかったため回答者なし。また、年代別では、30～60代の回答が少ない。

全体（知っている者の年代の内訳）

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか (N=213)



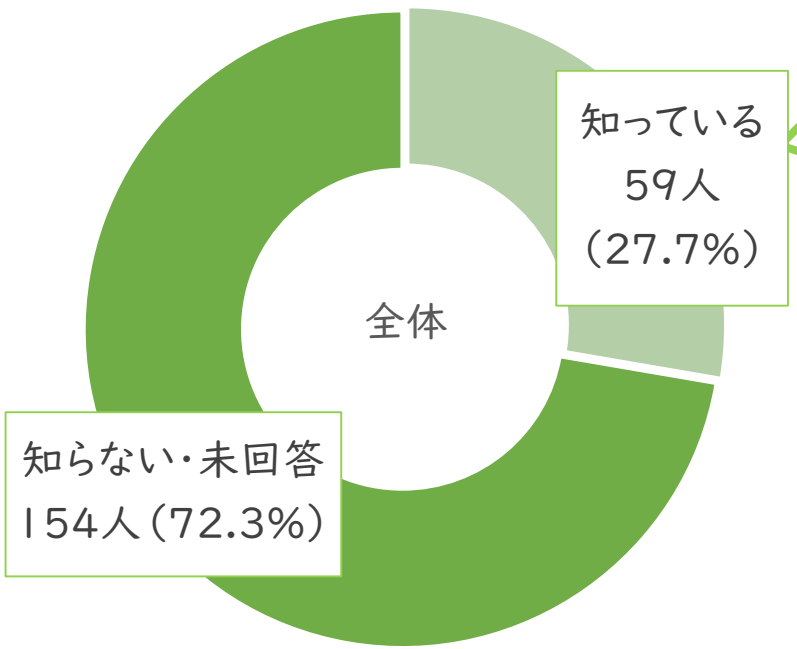
2）知っている者の年代の内訳　(N=59)



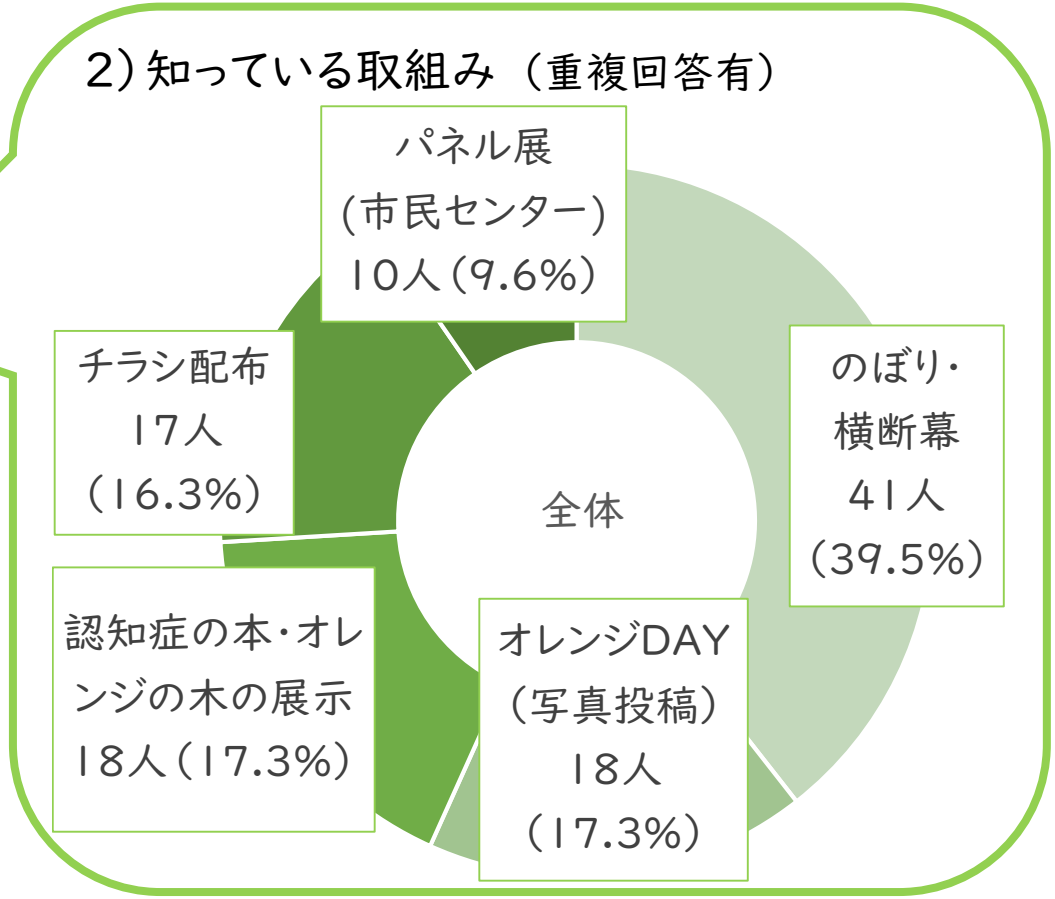
「知っている」と回答した者の割合は約3割であり、年代別では、20代・30代の割合が高く、続いて10代、40代・50代の割合が高い。

全体（知っている取組みの内訳）

1）いさはやオレンジ2024の取組を知っているか　（N=213）



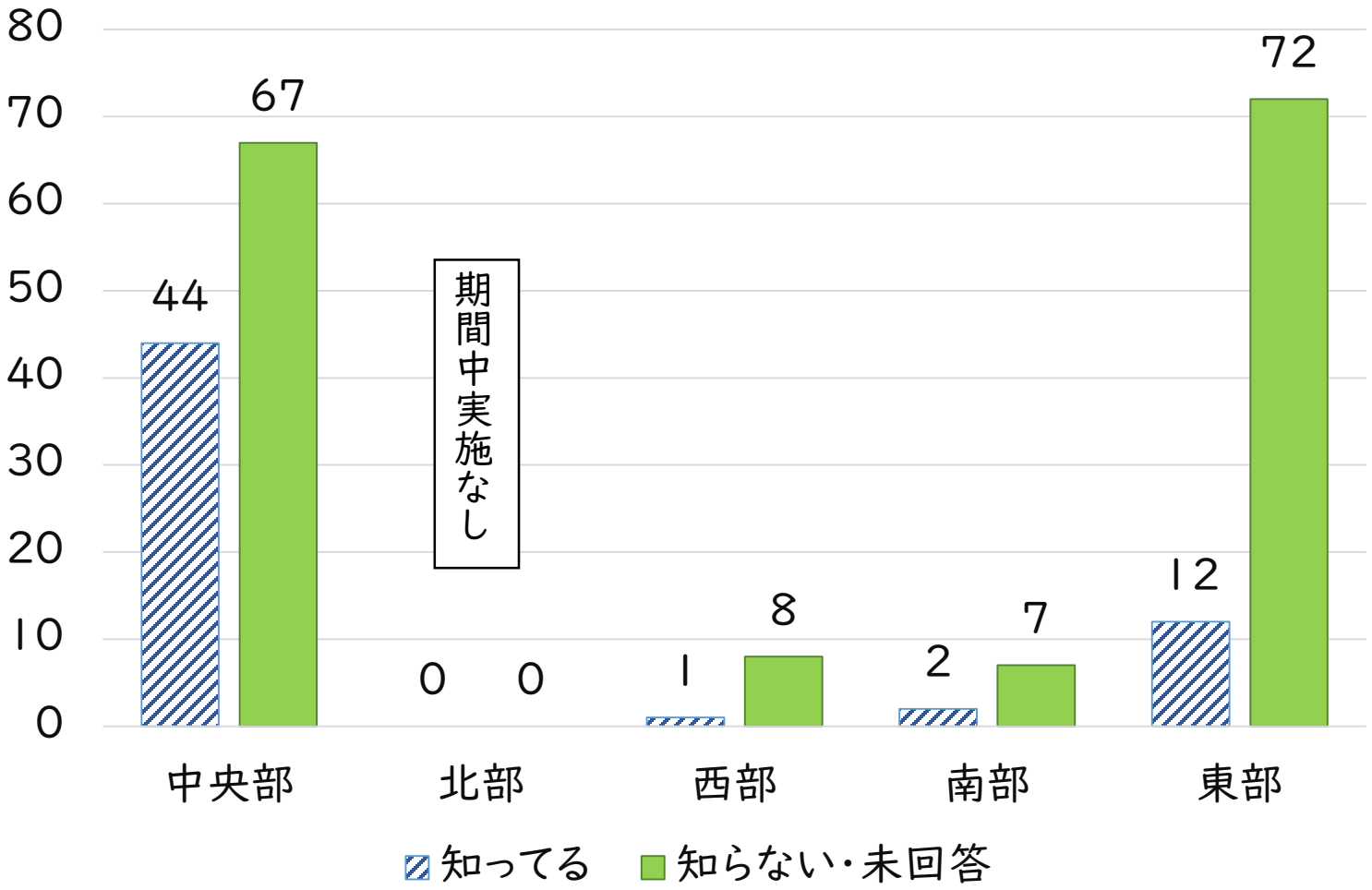
2）知っている取組み（重複回答有）



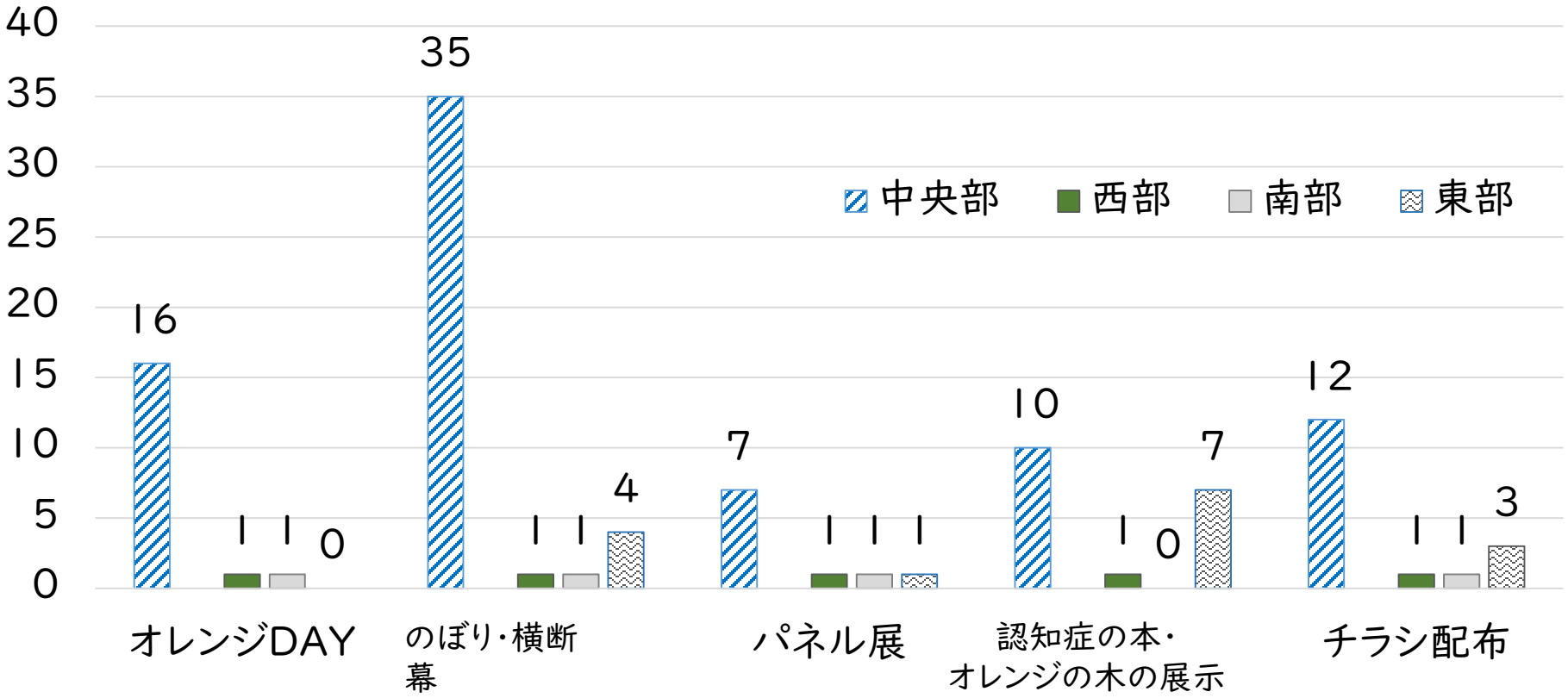
「知っている」と回答した者のうち、のぼり・横断幕の割合が高く、続いてオレンジDAY、認知症の本・オレンジの木の展示の割合が高い。

圏域別集計

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか　（N=213）



2）知っている取組み　（重複回答有）

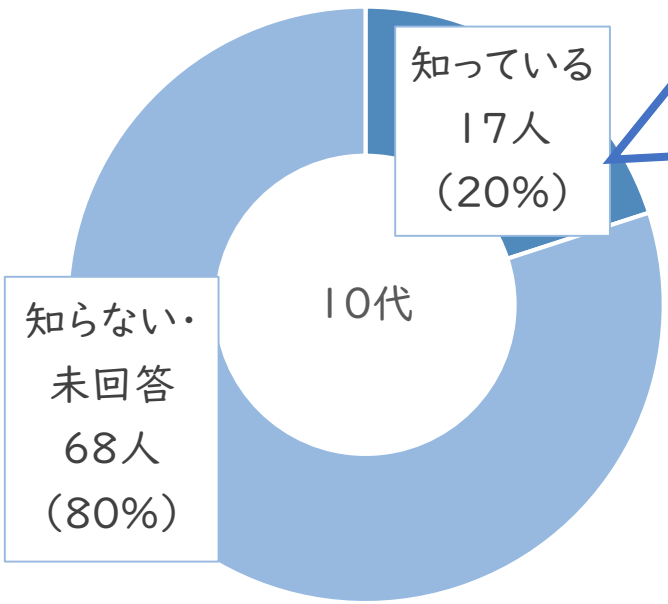


のぼり・横断幕、パネル展など中央部圏域を中心とした設置だったため、中央部圏域での取組みの認知度は他地区と比較して高い。

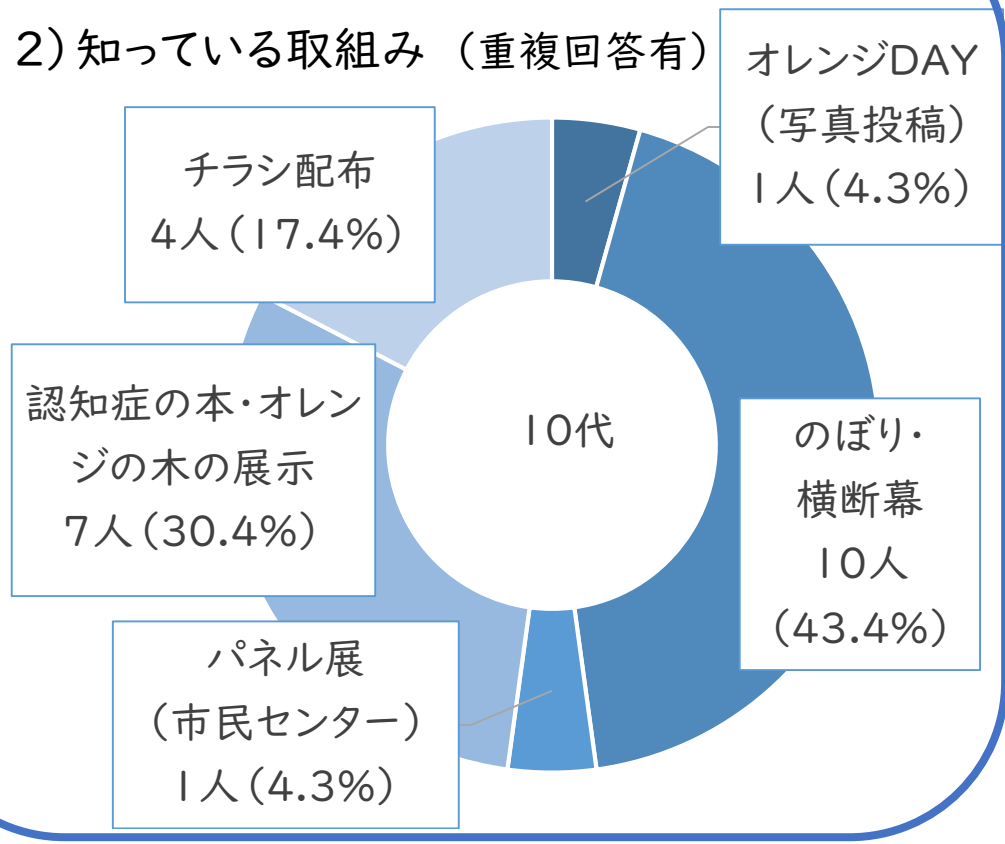
世代別集計

10代

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか　(N=85)



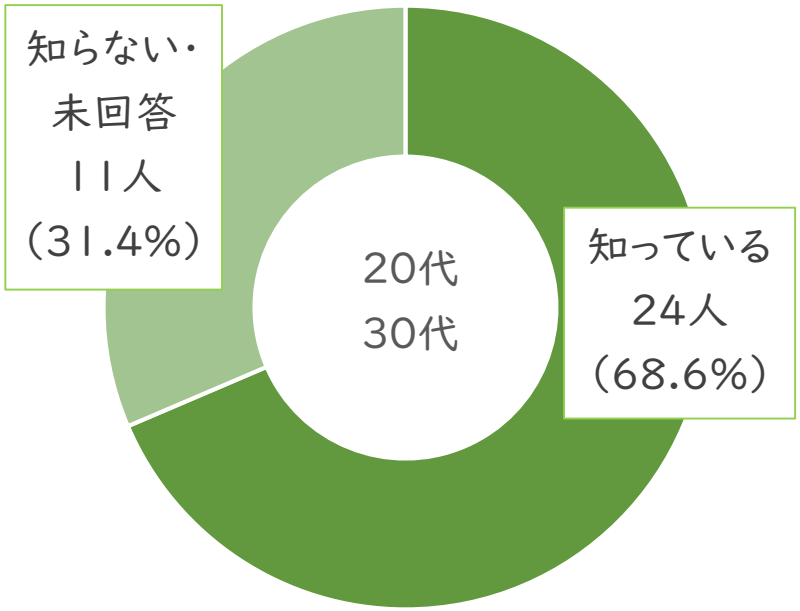
2）知っている取組み（重複回答有）



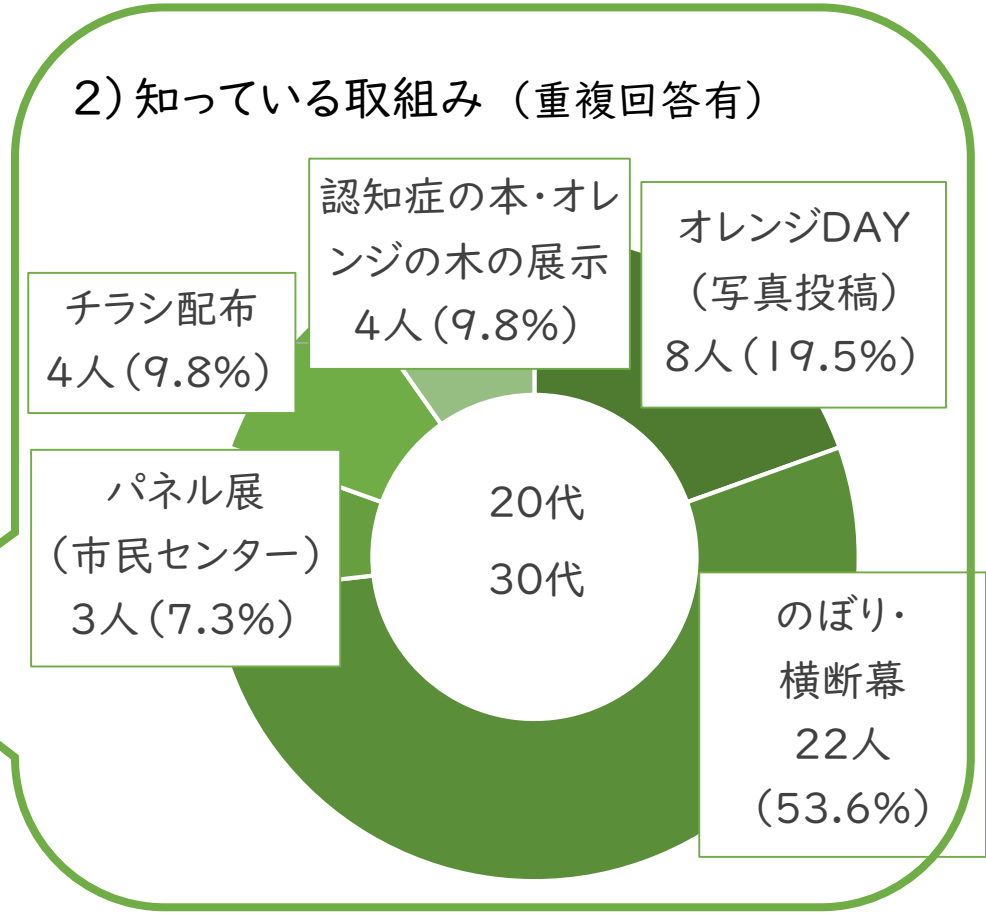
・10代では、85人中75人が高来中学校の生徒が対象であり、取組みを「知っている」と回答した者の割合は低かった。
・取組みは、のぼり・横断幕、図書館での認知症の本・オレンジの木の展示の割合が高かった。
・他世代と比較すると、学生への啓発方法は図書館の活用が効果的だと思われる。

20代～30代

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか(N=35)



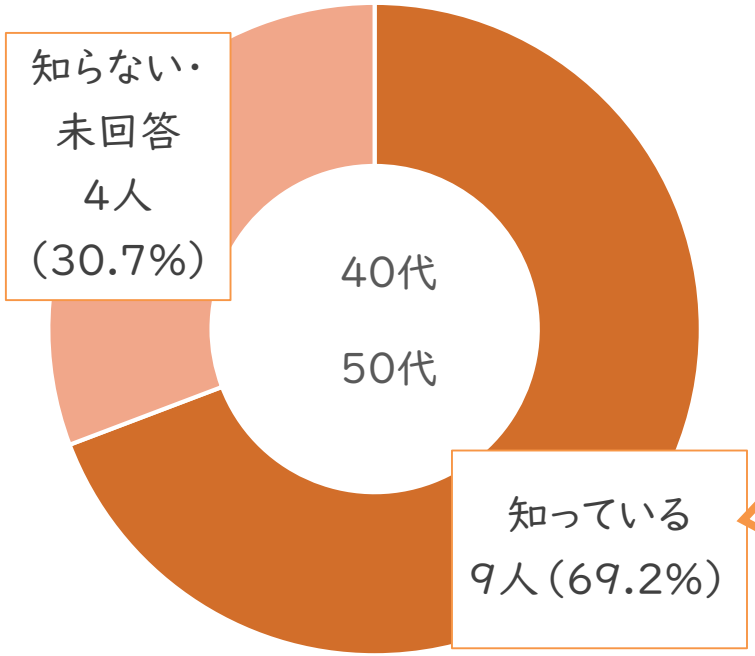
2）知っている取組み（重複回答有）



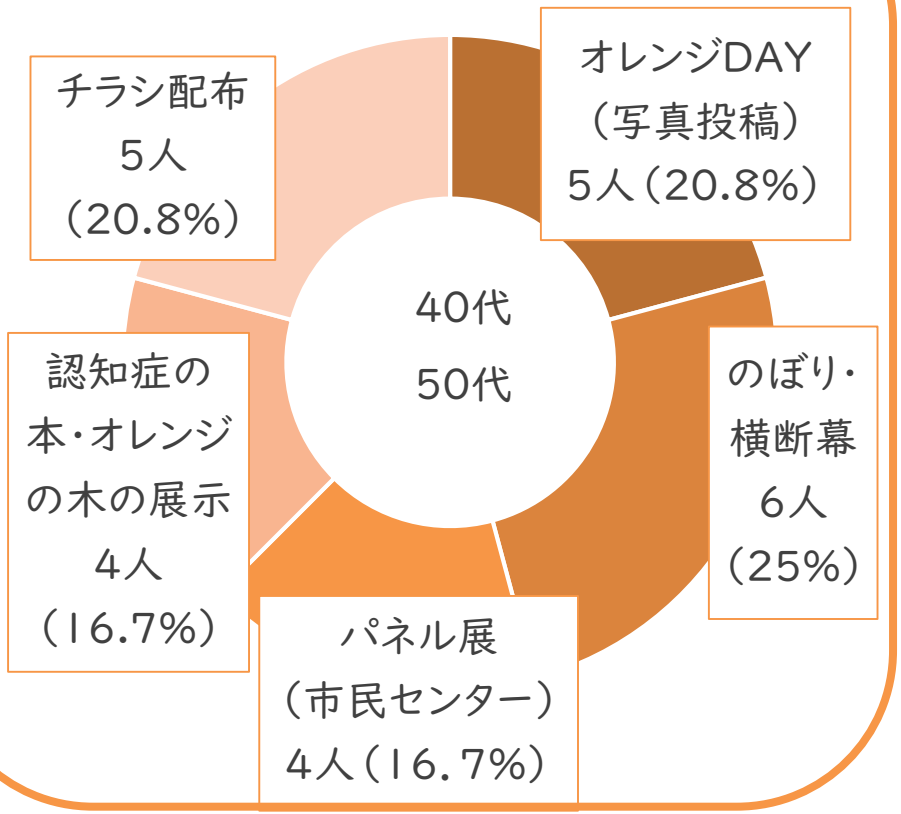
20代～30代では、取組みを「知っている」と回答した者の割合は高く、その中で、のぼり・横断幕、オレンジDAYの割合が高かった。これは、アンケート回答者がのぼり・横断幕の設置箇所である中央部圏域に多く、知る機会が多かったためと思われる。

40代～50代

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか　(N=13)



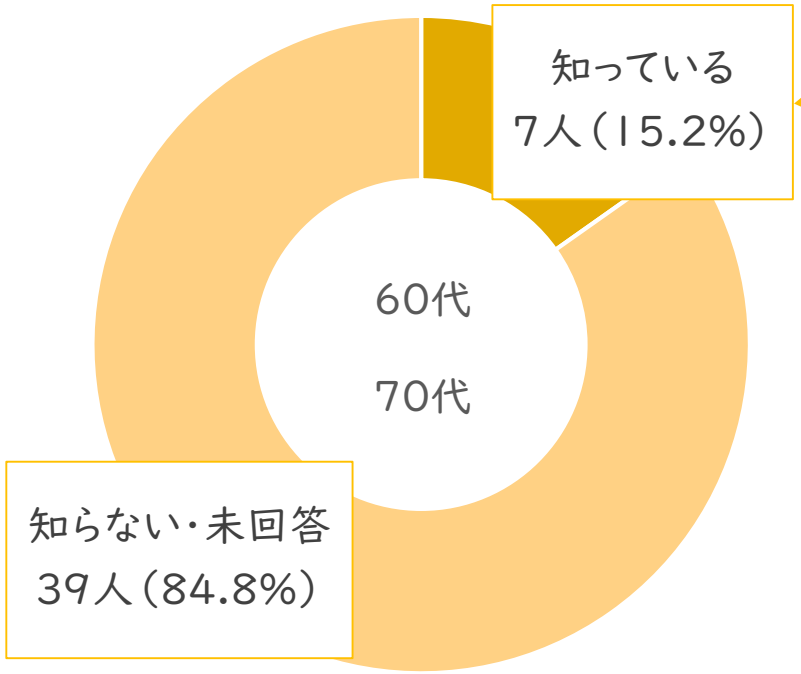
2）知っている取組み（重複回答有）



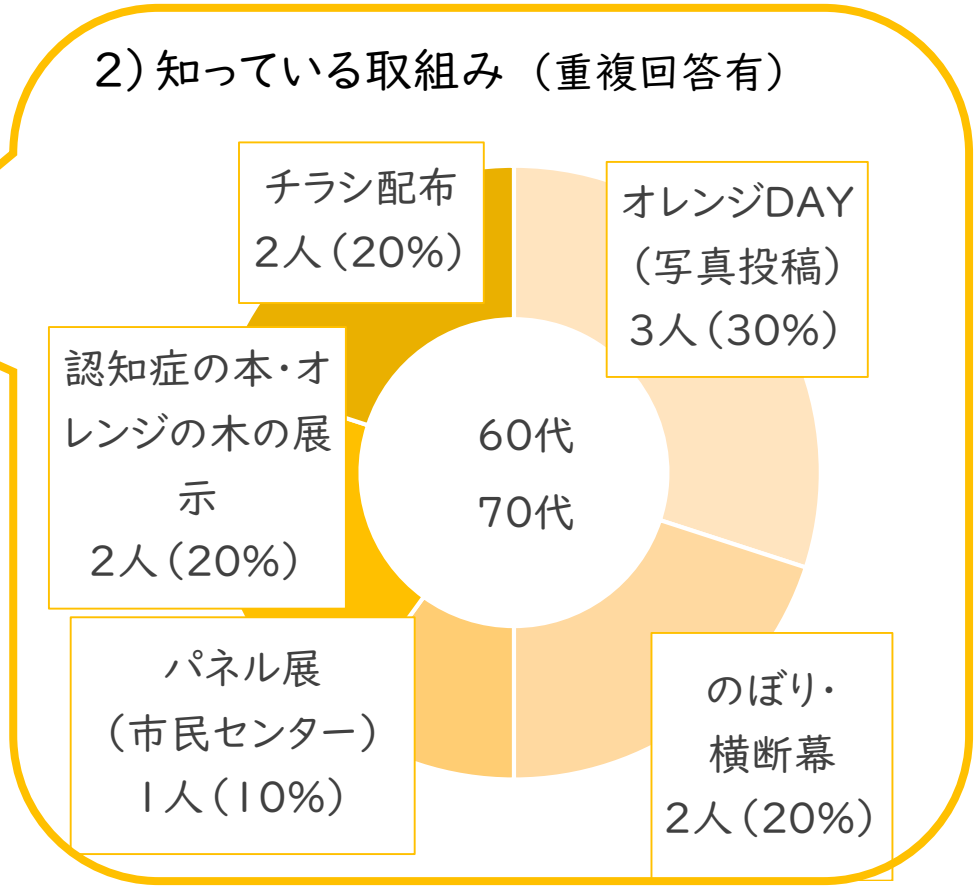
40代～50代では、アンケートの回答者数は少ないが、「知っている」者の割合が高く、どの啓発方法でも目に触れる機会があった。

60代～70代

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか　（N=46）



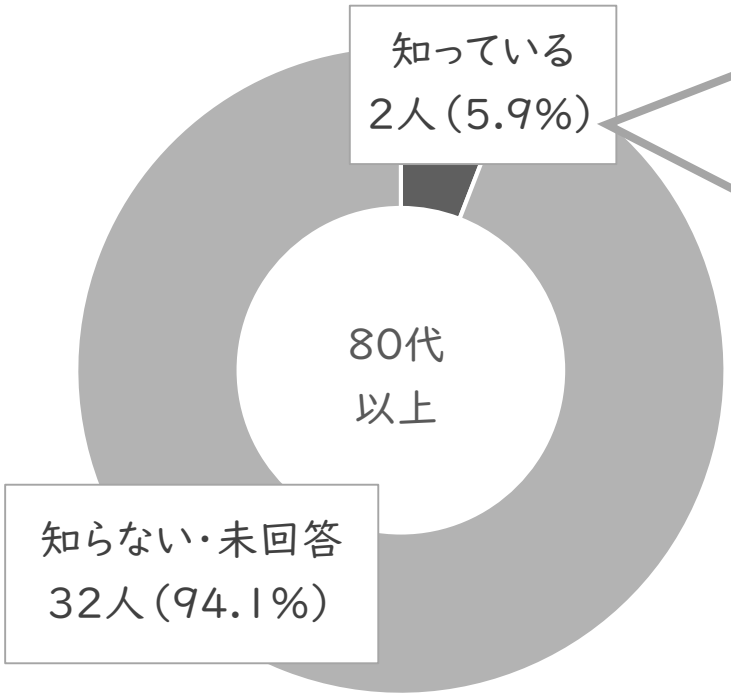
2）知っている取組み（重複回答有）



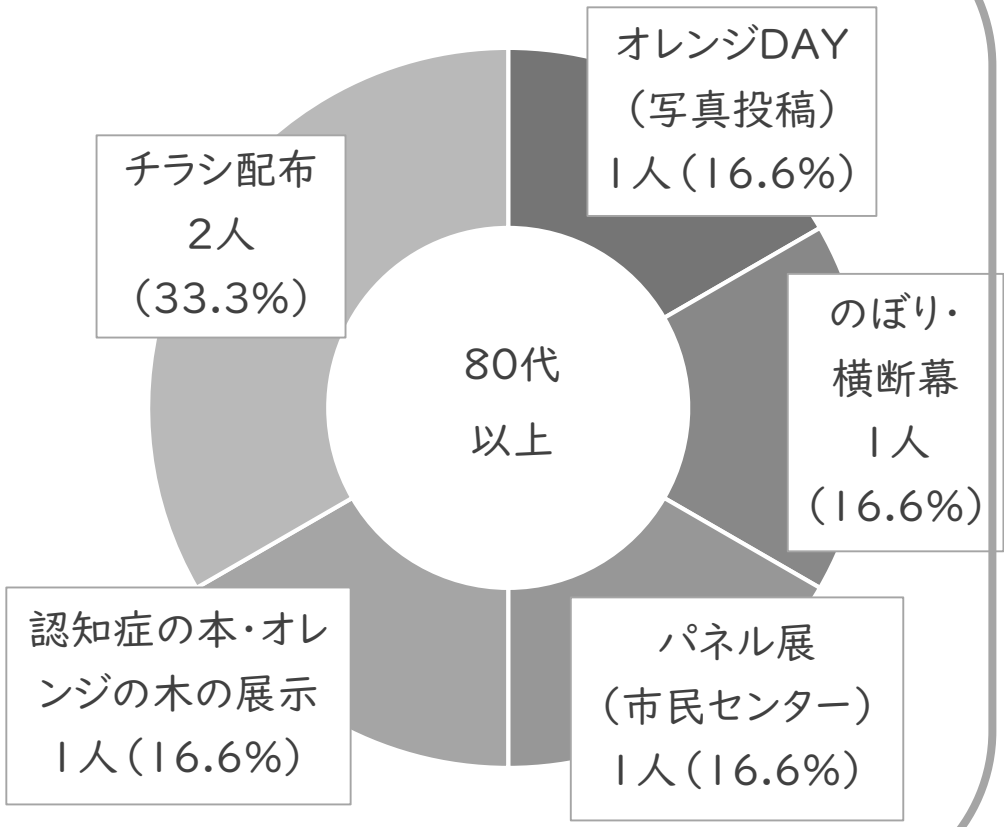
60代～70代では、「知らない・未回答」と回答した者の割合が高く、今回の啓発方法では情報が届きにくい。

80歳代以上

1）いさはやオレンジ2024の取組みを知っているか　（N=34）



2）知っている取組み（重複回答有）



80歳代以上では、「知らない・未回答」と回答した者の割合が高く、今回の啓発方法では情報が届きにくい。

（3）まとめ

〇自分事として捉えることができるよう、参加する機会をつくる

・オレンジの木のメッセージから、自分ができることや自分が認知症になっても安心して暮らせる地域にしたいなど、認知症を自分事として考える市民の発信の機会を作ることができた。

〇情報に触れる機会をつくる

・のぼり・横断幕は外出の機会が多い10代～50代に目に触れる機会となっている。今回は場所が中央圏域を中心とした設置だったため、圏域ごとに設置することで目に触れる機会を増やしていくと効果的だと考えた。

・学生のアルツハイマー月間取組みの認知度は低かったため、学校と連携する等周知や目に触れる機会を作っていきたい。

・60代以上の市民への啓発については取組みの認知度が低かったため、方法を検討していく必要があると考えた。

・世代によって目に触れやすい機会は異なるため、対象にするターゲットを明確にして、ターゲットに合った方法で実施していく大切さを感じた。

・普及啓発については、アンケート等の手法を通じて、市民にどのように伝わっているかの評価をし、効果的な啓発方法の検討を進める。

意見交換

【１】アンケートの結果から、認知症の普及啓発には、目に触れる機会を増やしていくと効果的と思われるが、各年代にどのような周知方法が考えられるか